

											昭 20		年 月 日	野砲兵第一三八連隊略歴 通称号 不動第三七二七一部隊
											7	7		
9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省黄旗屯において機動第三連隊から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。爾後吉林黄旗屯付近の警備日「ソ」開戦 設営隊は黄旗屯出発、翌日奉天省營盤到着 主力は黄旗屯出発 師団命令により南雑木に下車待機 同地において停戦 主力および設営隊は撫順に向つて移動、撫順において設営隊は主力に合流 現地応召者召集解除 撫順において武装解除 新屯に集結 奉天に移動、奉天鉄路学院に収容 奉天において第四一作業大隊に編入	摘要
16	14	20	19	18	16	15	12	11	10	9	30	10		

112  
十一の外

		10 9
		16 18
	連隊長 少佐 住友兵一	奉天出發 黒河經由入「ソ」

											昭 20	
											年 月 日	
10	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	7	7
10	18	14	13	21	20	19	15	13	10	9	30	10
<p>黒河経由入「ソ」</p> <p>奉天出發</p> <p>奉天着全員第四一作業大隊に編入</p> <p>奉天に移動のため新屯出發</p> <p>興京派遣隊撫順に復版、新屯に集結</p> <p>撫順において武装解除</p> <p>南稚木より撫順に移動同地において現地応召者召集解除</p> <p>停戦</p> <p>一部の者を興京（奉天省）に派遣</p> <p>奉天省撫順に移動途中南稚木に下車</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>爾後吉林付近の警備</p> <p>吉林省吉林において機動一旅団からの基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>											概	
											要	
											摘要	

## 工兵第一三八連隊略歴

通称号 不動第三七二七二部隊

2269



十二の内

第一三八師団通信隊略歴

通称号 不動第三七二七三部隊

昭 20		年 月		日		概		要		摘要	
至	自										
9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	7
17	10	10	6	21	19	15	13	9	5	30	10
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令                  吉林省黄旗屯において機動一旅団司令部から転入の基幹人員と在満応召者をも                  つて編成完結                  先発隊の清源設営隊黄旗屯を出発。清源青年訓練所に設営完了、本隊の到着を                  待つていたが八月十一日撫順に移動の命をうけ出発                  日「ソ」開戦                  本隊は移動命令により黄旗屯出発                  撫順到着、清源部隊は本隊に合流、同日停戦                  同地において現地応召者召集解除                  撫順において武装解除。撫順出発、同日新屯着。                  新屯出発、徒歩にて奉天に向う。                  奉天着                  奉天において第三一、第四一、作業大隊に編入</p>											

十二の外

		10	9
		16	30
		18	
		第四一作業大隊黒河経由入「ソ」	第三一作業大隊黒河経由入「ソ」
	隊長		奉天出發
	大尉		
	北川		
	博		

昭和20年											輜重兵第一三八連隊略歴	
年月日												通称号 不動第三七二七四部隊
10	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7		
16	18	17	14	27	19	15	13	9	2	30	10	摘要
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>吉林省煙筒山において機動一旅団から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結</p> <p>師団命令により本部第三、第四、第五中隊の各一ケ小隊は設営のため南雑木に第一、第二中隊の各一ケ小隊は清源に派遣</p> <p>日「ソ」開戦に伴い清源設営隊は直に本部に復帰</p> <p>本部が撫順に移動の際南雑木設営隊は本隊に合流</p> <p>撫順において停戦</p> <p>現地応召者召集解除</p> <p>撫順において武装解除。撫順出発、同日新屯に集結</p> <p>新屯出発、同日奉天着</p> <p>奉天において第四一作業大隊に編入</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>												

十三の外

2273

59022

五三十一

隊長  
少佐  
国分  
邦成

2274



											昭和20年		年月日		第一三八師団兵器動務隊略歴	
											7	7	10	30	通称号 不動第三七二七五部隊	
											8	8	9	15	概要	
											8	8	8	8	要	
											8	8	9	16	摘要	
											8	8	9	17		
											9	9	18	16		
											10	7	16	30		
隊長 中尉 江口 哲陽											軍令陸甲第一〇六号により編成下令					
											吉林省黄旗屯において機動三連隊から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結					
											盤石に移動					
											同地にて日「ソ」開戦					
											停戦により奉天省撫順に移動					
											撫順において現地応召者召集解除					
											同地において武装解除					
											新屯に移動のため撫順出発、同日新屯着					
											新屯出発、同日奉天着					
											同地において第四一作業大隊に編入					
奉天出発																
黒河經由入「ソ」																

											昭和20年		第一三八師団病馬廠略歴										
											7	7		通称号 不動第三七二七六部隊									
											30	10			概要								
											9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	7	7	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 吉林省黄旗屯において機動三連隊から転入の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結 部隊は黄旗屯出発、奉天省撫順に向う 途中南雑木（奉天省）に下車 撫順着、停戦 現地応召者召集解除 武装解除 撫順出発新屯（奉天省）に集結 奉天に向い新屯出発 奉天着 黒河經由入「ソ」
隊長 獣医中尉 後藤 捨夫											20	15	14	31	30	10	15	14	12	30	10	概要	
											要												
											摘要												

2276

昭 18		昭 17						昭 16		年月日		第二工兵隊司令部略歴 通称号 敏第三八八〇部隊
4	4	12	12	12	5	8	7	7	7	7	7	
23	19	13	6	4	6	3	31	頃	頃	頃	7	摘要
<p>特臨編一六令付第七一号により編成下令 東京において近衛工兵連隊補充隊よりの要員を基幹として編成完結 第四軍配属の命をうけ東京出發 神戸港出發 大連上陸 関東州界通過 黒河省孫吳着 竜江省富拉爾基移駐 転地演習のため富拉爾基出發 満支国境山海関通過 江蘇省南京着 同日より同地付近において渡河演習ならびに警備 原駐地帰還のため南京出發 満支国境山海関通過</p>												

2277

昭 20														昭 10			
7	5	5	5	5	4	3	2	12	9	8	4	4	3	2	2	2	4
15	下旬	下旬	中旬	1			28	1		頃	7	5	31	26	23	20	25
通化出発	通化省通化着、同日より同地付近の警備	満支国境通過	上海出発、南京、徐州、開封、石門、北京經由	上海着、同日より教育演習ならびに警備	南京出発	南京着	柳州出発	柳州攻略同地付近の警備	衡陽攻略	桂林攻略	武昌発丘州、長沙、衡州、永州、全州經由	武昌着	作戦開始のため南京出発	南京着	満支国境山海関通過	昌桂作戦参加のため富拉爾基出発	富拉爾基着。同日より同地付近の警備

				8	8	8	7
			10 下旬	9 16	8 19	8 15	9 18
				黑河より入「ソ」	以降奉天出發	同地において武装解除	停戦
							日「ソ」開戦、奉天防衛のため陣地構築
							奉天（第二中学校）着
							第三方面軍司令官の隷下に入り築城指導ならびに警備
			司令官				
			初代少将	谷田			
			二代少将	平野省三			

十五の夕

昭 15												年 月 日			
自 昭 16															
至 昭 17	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	昭 15				
2	2	2	12	12	11	11	4	5	5	8	8	7	7	概	
15	10	9	30	29	30	29	11	19	10	23	17	25	15		要
<p>「ルノン」島「リンガエン」湾「ダモルテス」上陸</p> <p>英領九龍出発</p> <p>占領地九竜付近の警備</p> <p>香港攻略戦参加</p> <p>英支国境遮断並に宝深地域の警備</p> <p>東江作戦参加</p> <p>南支広東省宝安县南頭上陸。爾後同地付近の警備</p> <p>下関港出帆</p> <p>下関重砲連隊において編成完結</p> <p>勅一六令第六〇号により編成下令</p>												重砲兵第一連隊略歴 通称号 敏第九七〇三部隊			
摘要															

昭 19				昭 19																				
9	8	7	5	7	7	6	6	6	5	5	4	4	3	3	2									
20	1	31	8	4	1	30	17	16	8	7	12	11	23	22	15									
			<p>「マニラ」湾口島嶼要塞砲撃戦参加</p> <p>「バタン」攻略戦参加</p> <p>「コレヒドール」島攻略戦参加</p> <p>占領地「マニラ」付近の警備</p> <p>比島「マニラ」港出発</p> <p>大連上陸</p> <p>大連出発同日関東州界通過</p> <p>北安省北安着。爾後同地付近の警備</p> <p>一部さ号演習に参加のため北安出発。同日黒河省孫河着。第一師団築城工事作業の援助</p> <p>原隊復帰のため孫河出発</p> <p>北安着、同日より北安付近の警備</p> <p>一部「ソ」満国境付近における障地構築作業のため北安出発。同日孫河着、同地において障地構築</p>																					

		至 自			至 自			昭
		10	9	9	8	8	5	20
		上旬	中旬	13	20	15	11	18
			黒河経由入「ソ」	北安において各作業大隊に編入	北安において武装解除	停戦	一部孫呉県下陣地構築作業に参加	孫呉出発、同日北安着
隊長	初代							
二代	大佐							
大佐	早川							
白木	法良							
良三	良							

十六の外



										昭 20	年 月 日	重砲兵第一九連隊略歴							
													10	9	9	8	8	8	8
										30	25	2	22	18	14	13	5	10	通称号 敏第一三八二〇部隊
										<p>黒河經由入「ソ」</p> <p>四平出発</p> <p>同地において第四作業大隊に編入</p> <p>四平において武装解除</p> <p>四平省揚木林において現地応召者のみ約七〇〇名召集解除</p> <p>四平省四平着</p> <p>公主嶺より四平に転進</p> <p>結</p> <p>吉林省公主嶺において戦車第三五連隊の基幹人員と現地応召者をもつて編成完</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>									概要
連隊長 少佐 神田達志																			概要

2233

昭 20		自 至										昭 16	
8		8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
12		8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
8 上旬		27	25	23	17	10	23	20	19	16	8		
<p>編成下令 舞鶴において仮編成 舞鶴出発 大阪港出帆 朝鮮馬山着 同地において馬山重砲連隊の人員を基幹として編成完結 移駐のため馬山出発鮮満国境安東通過 鮮満国境図門通過同日第三軍司令官の隷下に入る。 浜江省阿城着、爾後同地付近の警備 大隊は通化移駐のため一部を同地に出発させたが日「ノ」開戦により、若干名を通化に残置し他は阿城に復皈した 一部を阿城に残置し主力は軍隊区分による阿城臨時砲兵隊に編入して哈爾濱に移駐し同地付近の防衛に任じた。</p>		概										要	
		摘要											

独立重砲兵第七大隊 略歴

通称号 敏第二〇〇部隊

十七の夕

		11	11	9	9	8	8	8
		12	9	5	4	24	23	19
								15
		<p>停戦</p> <p>ハル濱防衛の主力は阿城に復戦</p> <p>阿城において武装解除</p> <p>阿城出發、途中玉泉—横道河子間は汽車によりその他は徒歩で海林に向つた。</p> <p>牡丹江省海林着</p> <p>同地において第一二九作業大隊に編入</p> <p>海林出發</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p> <p>初代 少佐 三井元記 (昭和二十年三月まで)</p> <p>二代 少佐 吉本正英</p> <p>三代 大尉 岡崎富士夫</p>						
		<p>(岡崎大尉未着任のため第一中隊長長谷真輔中尉がその職務を代行した)</p>						

昭		昭					年月日	独立重砲兵第二一大隊略歴
21		20						
1		8	8	8	8	7	通称号 敏第三七八一一部隊	
7頃		22	17	12	5	10		
隊長 少佐 滝井 暎		<p>黒河經由入「ソ」に編入</p> <p>幹部および現役兵は四平において武装解除その後将校大隊および作業第二大隊</p> <p>す</p> <p>四平において第三九師団長の命により大、中隊長および現役兵を除き全員解散</p> <p>公主嶺出發、四平省四平に向う</p> <p>結</p> <p>吉林省公主嶺において戦車第三五連隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完了</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>					概要	
							摘要	

2236

		昭 20					年 月 日
		9	8	8	8	7	
至 11 上 旬		20	18	15	5	10	概  要
自 9 下 旬							
<p>隊長 大尉 石塚雄二</p>		<p>黒河經由入「ソ」</p> <p>奉天において作業大隊に編入</p> <p>在満応召者召集解除</p> <p>奉天において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>結。爾後同地付近の警備</p> <p>奉天省奉天において第六二兵站勤務隊の基幹人員と現地応召者をもつて編成完</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>					

独立白砲第二七大隊略歴

通称号 敏第三七八一三部隊

概

要

摘要

2237

	年月日						独立自動車第一一六大隊略歴 通称号 敏第三七八一三部隊	
	昭	20	7	8	8	9		11
	10	5	15	20	20	22		
	<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天省奉天において幹部以下全員在満応召者をもつて編成完結。爾後同地付近の警備ならびに輸送業務の警備ならびに輸送業務 停戦と同時に部隊の約半数を召集解除 同地において武装解除 奉天において第五一、第五二作業大隊に編入 黒河經由入「ソ」</p>							
	<p>隊長 大尉 奥山 常盤</p>							
	概要						摘要	

2238

昭 19		自 昭 18		自 昭 17								昭 16		年 月 日	概 要	摘 要
7	4	至 11	自 5	8	3	11	8	8	8	8	8	7	7			
1	1	10	5	29	10	8	30	25	17	10	3	21	7			
<p>特臨編一六令付第一〇七一三号により編成下令 名古屋において第三師団隷下部隊の転入者を基幹として編成完結 名古屋出発 満州東安に移駐のため宇品港出帆 大連上陸 関東州界通過 東安省西東安着、爾後同地付近の警備 東安に移駐 東安省安達において輸送業務に従事 東安省密山において輸送業務に従事 第一、第二、第三中隊を虎林に派遣 主力は西東安に移駐</p>																

## 独立輜重兵第五三大隊略歴

通称号 敏第三七五九部隊

十九の外

2239

	昭 20	6	6	7	8	8	8	8	9	9	9
	5	5	9	2	15	18	20	28	2	9	21
第四中隊を通化省柳河に派遣 主力は移駐のため西東安出發 通化省通化到着 虎林派遣隊は通化に移駐し、主力に合流 停戦 柳河発 通化省通化着、同日武装解除 通化発 吉林第二〇一作業大隊に編入 吉林出發 黒河經由入「ソ」											
隊長 少佐 竹中蘭平											



昭										昭	年 月 日	通 称 号 敏 第 四 〇 一 七 部 隊	陸 上 勤 務 第 八 八 中 隊 略 歴
19										16			
6	6	6	1	1	12		8	8	8	7		概 要	特臨編一六令付第一〇二号により編成下令 大阪において編成完結 宇品港出帆 鮮満国境訓戒通過、同日間島省琿春着 関東軍琿春駐屯隊長指揮下の第一二野戦勤務隊長の隷下に入る。爾後同地付近の警備 関作命甲第一九二号により関東軍司令官の隷下に入る。 一部を杜荒子警備のため派遣 間島省杜荒子着 杜荒子派遣の一部は同地出発 通化省通化着、同地付近の警備 残余の杜荒子派遣隊は琿春の主力と合流
中旬	14	10	5	3	10		19	17	1	16	摘要		

2291

		自		至		自		至		自昭
		9	9	9	8	8	8	8	7	7
		20	9	1	22	20	15	1	15	30
										11
										主力は通化移駐のため琿春出發
										通化着
										停戦
										同地において武装解除同日出発
										吉林省吉林着同地において作業第二〇一大隊に編入
										吉林出發
										黒河經由入「ソ」
										隊長 大尉 山本一雄

2292

昭 20		昭 19		昭 18		昭 17		昭 16		年 月 日	概 要	摘 要	
8	8	8	8	4	4	6 下 旬	11	8	8				8
20	15	13	10	25	24		2	25	22	19	16	1	16
奉天において武装解除 停戦		奉天省奉天着、爾後同地付近の警備		移駐のため綏陽出発		牡丹江省綏陽着		移駐のため鶏寧出発鶏寧泉境密山通過		派遣し同地付近の道路作業に従事		錦県出発東安省鶏寧に至り爾後同地付近の警備、この間一部を牡丹江省八面通に	
								移駐のため平陽出発。錦州省錦県に至り、爾後同地付近の警備		東安省平陽着、爾後同地付近の警備		大連出発、同日関東州界通過	
										大連港上陸		大阪港出帆	
												大阪において編成完結	
												特臨編一六令付第一〇二号により編成下令	

## 水上勤務第四一中隊略歴

通称号 敏第四〇一一部隊

2293

		10	9 9
		17	17 14
	隊長 中尉 伊藤 一	黒河經由入「ソ」	同地において作業大隊編入 同地出発

2294

												年 月 日	
												昭 20	昭 19
8	8	8	8	8	8	8	8	7	5	5	11		
30	25	23	20	15	18	15	12	23	31	1	6		
<p>鎮南浦出発</p> <p>鎮南浦において武装解除同日応召者四〇名乃至五〇名召集解除</p> <p>朝鮮京畿道龍山着。同地停車場司令部に連絡の結果鎮南浦に反転</p> <p>鮮満国境通過</p> <p>昌図派遣隊は同地出発朝鮮に向う途中通化において中隊主力と合流</p> <p>通化省通化着</p> <p>停戦</p> <p>移駐のため主力は新京出発</p> <p>第二小隊を四平省昌図に派遣し兵舎の修理作業に従事</p> <p>勤務に従事</p> <p>臨時建築勤務第二中隊の人員を基幹として編成完結。爾後同地付近において建築勤務に従事</p> <p>軍令陸甲第七五号により編成下令</p> <p>中隊を編成。中隊は三ヶ小隊編成、主として関東軍秘密工事に従事</p> <p>東満部隊より派遣の人員をもつて軍隊区分により新京において臨時建築勤務第二中隊を編成。</p>												概	
<p>通称号 敏第一四〇四〇部隊 徳第一三九〇二部隊</p> <p>建築勤務第八二中隊（臨時建築勤務第二中隊）略歴</p>												要	
												摘要	

2295

01502

	昭
	21
	6 9
	2
隊長 中尉 石黒 緑	平塚三合里着 同地編成の作業大隊に分離編入され興南経由入「ソ」

2295-2

616

昭												年 月 日	第四二野戦道路隊略歴 通称号 敏第九七五〇部隊			
19			18			17			16							
4	4	4	6	5	1	1	8	8	8	8	8			7		
28	21	20	3	29	11	7	28	27	24	23	20	4	10	概	要	摘要
<p>移駐のため林口出發、同日鶏寧着</p> <p>鶏寧県境通過、同日東安省林口着</p> <p>移駐のため虎林出發</p> <p>虎林着、爾後同地付近の道路作業に従事</p> <p>大連出發</p> <p>関東州界通過、同日大連着、爾後同地付近の道路作業に従事</p> <p>南方作戦参加のため虎林出發。同日東安省密山県境通過</p> <p>東安省虎林着。爾後同地付近の警備</p> <p>東安省密山県境通過</p> <p>大連出發同日関東州界通過</p> <p>大連上陸</p> <p>門司港出帆</p> <p>久留米において工兵第五六連隊よりの要員を基幹として編成完結</p> <p>特臨編一六令付第一一四号により編成下令</p>																

2296

		昭										
		20										
		10	9	9	8	8	8	9	8	8		
		5	16	8	17	15	14	19	14	11		
隊長	大尉	大西	馨	黒河經由入「ソ」	奉天出発	同地において作業大隊に編入	同地において武装解除	停戦	主力は奉天に移動	鞍山着、同日遼陽着	奉天省鞍山着	移駐のため鶏寧出発

二十一の内



昭		昭		年月日	特設警備第六〇一大隊略歴
20		19			
8	8	2	1		
23	15	13	4		通称号 敏第三一六六部隊
<p>昭20 8 8</p> <p>昭19 2 1</p> <p>昭19 13 4</p>		<p>昭19 2 1</p> <p>昭19 13 4</p>		概	要
<p>隊長代理 少尉 箭内 二師雄</p>		<p>軍令陸甲第一号により編成下令</p> <p>吉林省新京において編成完結（常置員将校一名、下士官四名）</p> <p>爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり教育召集。日「ソ」開戦後も</p> <p>防衛召集実施せず</p> <p>停戦</p> <p>新京において部隊解散</p>		<p>摘要</p>	

2298

					昭	昭	年 月 日
					20	19	
					1	4	
		8	8	8	8	19	
		25	18	15	13	19	
<p>通称号 敏第一二五六部隊</p> <p>特設警備第六〇四大隊略歴</p>							
<p>隊長 中佐 樋口秀則</p>							
<p>概要</p> <p>軍令陸甲第四六号中改正により編成下令          通化省通化二道江において編成完結（常置員將校二名、下士官七名）          爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり教育召集          常置員の一部（將校一名、下士官二名）臨江に派遣し同地において現地在郷軍          人の教育召集を実施          日「ソ」開戦に伴い通化および臨江において防衛召集下令。          同日編成完結。爾後同地付近の警備          停戦          主力は通化において部隊解散          臨江派遣隊は臨江において部隊解散</p> <p>概要</p>							
<p>摘要</p>							

2299

			昭 19	年 月 日	概 要	摘 要
	8	8	10	9		
	23	15	10	8		
隊長代理 少尉 山内 高一						

## 第六〇一特設警備工兵隊略歴

通称号 敏第三一五三部隊

2300

昭 昭							昭	年 月 日	概 要
20 19							16		
8	8	8	6	5	5	10	7		
15	12	9	5	31	29	1	30	16	
奉天に移動、停戦 奉天に転進 鄭家屯において日「ソ」開戦 第四十四軍司令部に改編 軍令陸甲第八四号により復帰ならびに編成下令 第四十四軍司令部に改編 奉天に出発、同日鄭家屯着、 移駐のため、新京出発、同日奉天着、 奉天出発、同日鄭家屯着、 高射砲部隊（哈爾濱—大連間） 旅順要塞司令部隷下部隊 独立守備隊………大隊三〇 旅順要塞司令部隷下部隊 高射砲部隊（哈爾濱—大連間）							軍令陸甲第四三号により関東軍防衛軍司令部、臨時編成甲下令 新京において編成完結		第四十四軍司令部略歴 （関東防衛軍司令部） 通称号 速征第一四〇〇一部隊 濤第二五〇部隊
							軍令陸甲第四三号により関東軍防衛軍司令部、臨時編成甲下令 新京において編成完結		概 要
									摘 要

2301

	至自		
	10 10	9	8
	30 23	24	20
四十四軍司令官 中將 本郷義夫	関東防衛軍司令官 中將 山下奉文	奉天にて武装解除 奉天にて第二作業大隊に編入 同日奉天出發 黒河経由入「ソ」	

昭和19年										
年月日										
昭	19	20								
年	19	20	6	6	7	8	8	8	8	8
月	6	6	6	6	7	8	8	8	8	8
日	15	27	初	9	10	13	16	28	29	31
第一〇七師団司令部略歴										
通称号 満第八七部隊 屈第二〇〇五〇部隊										
概要										
<p>軍令陸甲第五五号により第一〇七師団司令部編成下令  興安北省阿爾山において阿爾山駐屯隊司令部を基幹として編成完結  阿爾山より興安北省五叉溝に移動し陣地構築に従事  日「ソ」開戦  師団戦術司令部を雄呼山に設定  第三〇軍司令官の指揮下に入るべく新京に転進の軍命令を受け師団は三ヶ梯団  に別れ、五叉溝に集結、興安を経て新京に向かい転進途中、西口付近において  「ソ」軍と遭遇、経路を変更して「ハマコーザ」に転進。  師団は編成をととのへ興安南省音徳爾方面に向かい出発  音徳爾に到着  音徳爾において武装解除  音徳爾出発、興安に移動  興安集結「ソ」軍に収容さる</p>										
摘要										

2303

至 自		至 自				
11	10	10	10	10	10	9
2	27	30	26	20	15	12
<p>「ソ」軍の命により徳伯斯に移動          龍江省齊々哈爾（小民屯）に移動          齊々哈爾（小民屯）において將校作業大隊その他第一六、第一七、第一九各作          業大隊に編入          齊々哈爾出発          滿洲里經由「ソ」</p> <p>司令官 中將 安部 孝一</p>						

2304

		至 自		昭	
		8		19	
10	9	8	8	6	6
15	12	31	29	27	15
<p>歩兵第九〇連隊略歴</p> <p>通称号 満第一八一部隊                      旭第二〇〇〇八部隊</p>					
<p>概 要</p>					
<p>軍令陸甲第五五号により編成下令                      主力は阿爾山その他は伊爾施、「ハンダカヤ」等において編成完結（阿爾山駐屯隊復帰に伴い第一〇七師団編成内に入る）爾後外蒙国境監視に任ずると共に各駐屯地区附近の警備ならびに陣地構築実施                      日「ソ」開戦に伴い新京方面に転進のため行動開始                      興安北省牛汾台、五叉溝、西口等において「ソ」軍の攻撃をうけ大損害をこうむり進路を変更して、師団主力とともに山中を迂廻「ハマコーザ」を経て号什台に到り再び「ソ」軍と交戦しこれを突破して興安南省音德爾に向かう                      主力は音德爾に集結、当地において武装解除                      音德爾出發、興安に移動                      德白斯に移動                      龍江省齊々哈爾（小民屯）に移動</p>					
<p>摘 要</p>					

2305



円 639<sup>〇</sup>/<sub>2</sub>

		10	10
		29	27
		20	20
		齊々 齊々 齊々	齊々 齊々 齊々
		滿洲里 經由入 「ソ」	齊々 齊々 齊々
		連 隊 長	齊々 齊々 齊々
		少 佐	齊々 齊々 齊々
		早 田 正 義	齊々 齊々 齊々

2306

昭											年	月	日
19													
					8	8		8	20			6	6
10	10	10	9	8	8	8		8	7	11		27	15
26	22	14	14	30	29	28		12	下旬	中旬			
<p>軍令陸甲第五五号により編成下令</p> <p>龍江省齊々哈爾において独立混成第七連隊を基幹として編成完結（第一大隊齊々哈爾、第二大隊昂々溪、第三大隊自城子に駐屯）</p> <p>連隊主力は五叉溝に第三大隊は德伯斯に移駐し爾後同地付近の警備</p> <p>各駐屯地付近の陣地に配備し、陣地構築に従事中日「ソ」開戦</p> <p>本部は師団主力とともに後退西口付近において「ソ」軍と交戦し「ハマコーザ」を経て号什台に向かう</p> <p>音德爾に集結</p> <p>音德爾において武装解除</p> <p>興安に集結、收容</p> <p>德伯斯へ移動</p> <p>齊々哈爾第一五作業大隊に編入</p> <p>齊々哈爾出発</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p>											概	要	摘要

歩兵第一七七連隊略歴

通称号

滿第二〇一部隊

屈第二〇〇一部隊

至 自															
8	8	8	10	10	10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	8
26	12	9	26	22	14	2	15	14	29	29	28	26	25	15	11
<p>第一大隊は開戦と共に新京に転進の命により陣地を撤退 西口において交戦</p> <p>西口付近の戦場を脱出し「ハマコーザ」に向かい転進 号什台において戦闘後興安南省音徳爾に移動</p> <p>音徳爾に集結</p> <p>音徳爾において武装解除</p> <p>興安収容所入所</p> <p>徳伯斯収容所入所</p> <p>徳伯斯出発</p> <p>齊々哈爾（小民屯）に収容</p> <p>齊々哈爾第一五作業大隊に編入</p> <p>齊々哈爾出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>第二大隊は大義山において陣地構築中は「ソ」開戦 師団の後退援護のため列車で索倫に急行、同日索倫着、索倫において「ソ」軍 戦車と交戦後大隊は分散状態となつて脱出。</p> <p>興安南省音徳爾に部隊主力は集結</p>															

10	10	10	8	8	8	8	8	8	8	10	10	10	8
26	22	14	27	25	15	14	12	11	9	26	22	14	29
<p>音徳爾において武装解除                  興安を経て龍江省齊々哈爾に收容                  齊々哈爾第一五作業大隊編入                  齊々哈爾出發                  滿洲里經由入「ソ」                  第三大隊は日出山付近において障地構築中開戦                  興安北省五叉溝に集結                  五叉溝出發                  西口において交戦                  戦場離脱                  号什台において交戦                  音徳爾において武装解除                  齊々哈爾第一九作業大隊編入                  齊々哈爾出發                  滿洲里經由入「ソ」</p>													

	至自	至自	
	10 10	10 10	10
	29 27	27 26	20
	連隊長	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出発
	大佐		各大隊の一部は齊々哈爾第一七、第一八作業大隊等に編入
	米本勝男		

三の内

2310

昭		昭		年	月	日
20	19	6	6			
9	9	9	8			
17	8	1	28			
<p>通称号                      満第二〇九部隊                      旭第二〇〇〇八部隊</p>						
<p>歩兵第一七八連隊 略歴</p>						
<p>軍令陸甲第五五号により編成下令</p>						
<p>兵站警備隊を基幹として編成完結</p>						
<p>中甸主力は龍江省齊々哈爾に移動、第二大隊を奉天省遼陽に派遣</p>						
<p>上甸連隊主力は五叉溝に移駐（移駐時、齊々哈爾に各大隊の一部残置）</p>						
<p>日「ソ」開戦、五叉溝を撤退</p>						
<p>新京方面に転進のため行動開始</p>						
<p>西口付近において交戦</p>						
<p>号什台を経て興安南省音德爾に向い後退、途中各中隊は四散状態となつて行動</p>						
<p>後音德爾において集結し師団主力と合流</p>						
<p>音德爾において武装解除</p>						
<p>音德爾出發</p>						
<p>興安に収容</p>						
<p>興安より德伯斯に出発</p>						
						摘要

8	8	9	9	9	8	8	8	8	11	10	10	10	9
18	15	11	8	1	18	15	12	9	30	30	18	3	26
<p>同地において武装解除</p> <p>哈爾濱において停戦</p> <p>光戦車隊長の指揮下に入る</p> <p>各大隊の一部残置者は齊々哈爾濱より哈爾濱に移動</p>		<p>黒河経由入「ソ」</p>		<p>新京出発</p> <p>新京第七作業大隊に編入</p>		<p>新京において武装解除</p> <p>新京に到着、第一四八師団長の指揮下に入る</p>		<p>第二大隊は連隊復帰を命ぜられ遼陽出発</p> <p>白城子に到着したが、原隊に復帰出来ず引続き新京に向かい転進</p>		<p>滿洲里経由入「ソ」</p> <p>齊々哈爾濱第一八作業大隊に編入、齊々哈爾濱出発</p>		<p>齊々哈爾濱</p> <p>德伯斯出発</p> <p>德伯斯到着</p>	

64103

	9	9
	11	9
	連隊長	海林第一〇一作業大隊に編入 海林出発、板芬河経由入「ソ」
	中佐	
	堀尾	
	茂	
	光	

匹の外

2313



至自		至自											昭 20	第一〇七師団挺進大隊略歴 通称号 出第二〇〇一一部隊			
至自		至自											年 月 日		概 要		
10	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8			7	7
5	9	30	29	28	25	20	19	16	15	14	13	12	9	15	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 興安北省五叉溝において第一〇七師団各隊より抽出して編成完結 日「ソ」開戦に伴い第一中隊を三函山付近に、第二、第三中隊を五叉溝付近に 配置し戦闘準備 転進命令により同地出発 西口付近において交戦 「ハマコーザ」に転進 情報蒐集のため西口北方三料の地点において各中隊作戦行動を行ふ 「ハマコーザ」到着 「ハマコーザ」出発、新京に向ふ 号什台において「ソ」軍に遭遇、第一〇七師団司令部の命により音徳爾に転進 音徳爾に到着 音徳爾において武装解除 行軍にて興安に移動 徳伯斯に移動	摘 要

至自	至自	至自	自
1010	1010	10	10 10
2026	2722	20	14 7
大隊長	大尉	野村	彰
滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	齊々哈爾第一五、第一七作業大隊に編入	齊々哈爾に集結

2315